平成22年4月1日
4月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
岡崎教師塾「允文館」塾長
福應　謙一氏
この人に聞く …… 2
日本のドーバー泳女王
藤田　美幸氏
羅針盤 …… 2
六名小学校長　三浦みどり
ふれあい …… 3
岩津中　山盛　誠治
特集 …… 4
平成22年度　学校教育の視点
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー … 8
環境緑化（昭和53年）
この本を …… 8

教育随想

岡崎教師塾の立ち上げ

岡崎教師塾「允文館」塾長
（元岡崎市小中学校長会長）
福應　謙一　氏

連尺小学校の正門脇に、少し朽ちかけてきたものの、往事の風格を偲ばせる立派な松の輪切りが置かれている。岡崎の藩校「允文館（いんぶんかん）」跡に植えられていたものである。

その名前をいただいて、このほど、大学生を対象とする岡崎教師塾「允文館」を立ち上げた。学問を志した師弟の心意気を感じ取り、名前に恥じない新進気鋭の優れた岡崎の教師が育つことを願うものである。次代を担う子供を育成するためには、気力・能力を備えた教師の力を必要とする。本塾での研鑽を通して、入塾者一人一人が教師となる適格性を磨き、さらなる資質向上を目指せば、本人にとっても、また子供にとっても意義がある。

今、まさに新学習指導要領の完全実施を間近に控えており、悠長にしている時間はない。多くの若者が、結集し、先輩教師とともに教育について熱く語り合うときを心待ちにしている。

ご承知の方も多いと思うが、NHK総合テレビ『プロフェッショナル仕事の流儀』という、プロ中のプロが登場する番組がある。様々な職種の卓越した人材が、毎回登場する。外科医、料理人、リンゴ農家、考古学者、そして、しばしば教師も登場する。いずれもプロと呼ぶにふさわしい人ばかりで、壮絶な働きぶりに心を奪われ、感動に浸る。そして、それぞれのプロのもつ挫折と至言を知る。その道一筋に進む人でも、大きな壁に当たり、「珠玉の言葉」を語る。

ある熱血教師は、生徒の目線で対峙し、生徒を信頼して熱い視線を送り続ける。すると、生徒の心に活力がみなぎり、目標へと向かう。それは、人間味溢れる、プロ教師の地道な営みであった。

教師塾「允文館」が、自信を持って教壇に立つ岡崎の教師を多く輩出することを切に願うものである。

（ふくおう　けんいち）

ふるさとシリーズ

この人に聞く

困難を楽しみながら

日本のドーバー泳女王
藤田　美幸　氏

「プールと違って、海では前からも後ろからも横からも、いろんな波が来ます。その波に合わせてストロークを変えて泳ぐのがとても楽しいのです。」

ドーバー海峡横断（イギリス→フランス　直線距離で三十四km）に成功した藤田さんは、ドーバー泳公認団体から贈られたガータルエダリー賞（努力賞）のカップを手に、笑顔で話してくれた。

藤田さんは、高校卒業後、安城マスターズ（スイミングクラブ）の一人として競泳を続けていた。一九九八年に転機が訪れる。

「友達に、熱海で行われる三・二kmのレースに誘われたのです。マスターズの人たちは、競泳のトップクラスの人たちばかりなので、私は、海でトップになろうと思い、参加しました。」

ドーバー泳を決めたのは、その翌年。テレビ番組がきっかけだった。

「人と違うことをして一番になりたいということをいつも思っていたので、まさしく、これだ、と思ったのです。」

二〇〇二年、六人のリレーで片道泳を成功させた。同時に、日本人初の往復泳成功を目標に掲げ、ソロで泳ぎたいという意志を固めた。

「それなりに練習はしたのですが、やはり簡単ではないですね。二〇〇四年に片道泳で二回リタイアしました。二回目は、あと三kmというところだったのですが、何も見えない夜で、しかも水温は十二度ぐらいまで下がり、大腿部も痛くなり、どうすることもできません。寒い、痛いと叫んでいました。」

しかし、あきらめない藤田さんは、翌年ついに片道泳を成功させた。タイムは、十七時間三分。その後、日本人最多となる合計七回の片道泳を成功させる。

二〇〇九年八月には、初めて往復泳に挑戦した。フランスで折り返し、イギリスまであと七・四kmでのリタイア。七回目の片道泳のみに終わった。

「泳いでいるときは、つらいことの方が多いです。でも、できる限り、楽しいことを考えようと努めています。歌を歌っていることもあります」と、どこまでもプラス思考であり続ける。

「往復泳には、今年も来年もチャレンジし続けます。達成できたとしても、また新たな目標を探して泳ぎ続けると思います。あきらめずに練習し続ける限り、少しずつ進歩していくといつも言い聞かせています。」

常に挑戦し続ける藤田さんの熱い思いは、どこからわいてくるのか。

「私がずっと夢を追い続けられるのも、家族やコーチ、周りの人たちの理解があってこそです。特に、おまえの夢をかなえてやると言って、ずっと一緒に付き合ってくれるコーチには本当に感謝しています。私は、一人では何もできません。」

今後も、簡単には達成できない往復泳に挑戦し続け、達成したら、また新たな目標を掲げる。日本のドーバー泳女王の挑戦に終わりはない。

（氏　　名　ふじた　みゆき
生年月日　昭和四十一年一月十日
住　　所　岡崎市昭和町）

羅針盤

人材は「人財」

六名小学校長
三浦みどり

平成二十二年度がスタートしました。昨年度より、先行実施も可という中で、今年度は改訂学習指導要領移行期二年目となります。

平成十九年には、全教員にパンフレット『生きる力』が配られ、二十年度には、学習指導要領が全教員に配付され、二十一年度は移行期一年目の指導内容が追加されました。

各学校では、こうした動きを受けて、新たな教育の在り方について研修の機会を設け、教職員の共通理解を図り、教育課程・教育計画にその趣旨を位置付けるなど、教育改革への対応を進めていることと思います。

本校では、各教科主任が、学習指導要領を基に、それぞれの教科・領域の説明をしたり、それを読み合ったりするなどして、どこがどう変わったか、移行期で重要なことは何か

ふれあい

ふるさと岡崎への誇りを

岩津中　山盛　誠治

どうすれば、ふるさとを誇りに思う気持ちを高めることができるだろう。都会にあこがれ、ふるさと岡崎を軽視しがちな子供たちの言葉を聞くたびにそう思っていた。ふるさとに対する気持ちを高めていきたい。この願いを達成するために企画されたのが、中学一年生における「職場見学ワンデーフリー」だった。

公共交通機関を利用し、興味がある職種の事業所と市内の名所・施設を訪問する取組をやろうと呼びかけたとき、多くの子供たちが強い関心を示した。しかし、A男はいつも通りの冷めた反応で、訪問したい職種アンケートにゲームのイラストレーターと書いた。行きたい市内の名所・施設もない。気になり話しかけても「別に」と素っ気ない言葉が返ってくるばかりだった。

A男の目には、この活動が魅力的なものとして映っていなかったのだ。

このままでは、この活動を経てもふるさとへの思いは深まらないだろう。私は、A男のグループに紹介する事業所探しに奔走した。彼が引き付けられるようなデザイン性をもち、岡崎ならではの良さを感じられるところと考えて動いた。

私がたどり着いたのは、「地域をデザインし、ブランド化する」ことに取り組んでいる会社ＤＤＲだった。岡崎の地サイダーである「五万石サイダー」を、月に一万本も売れる大ヒット商品「三河国サムロックサイダー」へと変えた。ＤＤＲの「革ジャンにふんどし姿の侍」というデザインの宣伝が、A男の興味を引くと考えたのだ。赤・黒・白の三色で描かれた、その個性的なデザインを初めて見たとき、A男は「すごい。おもしろい」とつぶやき、熱心に調べ学習に取り組むようになっていった。

訪問当日。ＤＤＲの事務所には安藤社長だけでなく、テレビの取材スタッフもいた。安藤社長が『発見！人間力』の追跡取材を受けていたことから、A男たちも撮影されることとなったのだ。彼らは緊張しつつも、積極的に質問を重ねていった。特にA男は、岡崎には昔からずっと作られてきた和ろうそくや和灯、花火などの伝統工芸品が多くあることや、それらが安藤社長の作り上げたデザインで統一され、世界中に売り出されていることに驚いていた。

A男は、事後アンケートに、「岡崎を誇りに思う気持ちが高まった」と答えた。さらに後日、伝統的工芸品作文コンクールに自主的に応募し、その中で「僕は、こんなにも魅力的な伝統工芸品が多い岡崎に生まれてきてよかったです。岡崎を誇りに思います」と書いた。ふるさとを愛し、世界にその良さを発信している安藤社長との出会いが、A男の価値観に大きな変化をもたらしたといえる。

岡崎には、豊かな地域力がある。今後も、子供たちがその良さを実感できる実践を積み重ねていきたい。

を共通理解するようにしました。

さて、今年度は、各学校で、先ほど約六十年ぶりに改正された教育の理念や目指すべき方向などを再度確認し、それぞれの学校教育の中でその実現に向けて、どう取り組んでいくかを具体的に考えていかなければなりません。そこで、何よりも重要となるのが、教師集団です。

ある講演で、「子供の能力を伸ばすには」ということについて、「心の働きも体の働きも遺伝子でつながっており、前向きな気持ちが大切。だから学校では、先生が子供にとって一番大事な人的環境であり、先生の言葉掛けで子供たちの遺伝子にスイッチが入る」という話をお聞きました。これは、私自身がいつも気にかけていることでもありますが、人的環境としての教員一人一人が教師としての力をつけていくことが、子供たちを育てるうえで何よりも重要であることを示唆しています。

教育課程の改善は、学校を変えるチャンスでもあります。

「人は財産」の言葉のように、人材は「人財」であり、より優れた教育の推進のために、この一年の研修を充実させ、教師一人一人が「豊かな人財」となり、岡崎の教育を更に前進させていきたいものです。

▲ 確かな学力ー根石小ー

価値観の多様化とともに、加速化する情報化社会においては、人間関係の希薄化が増し、子供たちの道徳心や学ぶ意欲の低下が危惧されている。これからの時代を生き抜く子供たちには、人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生き抜くための能力を育成しなければならない。

このような中、新しい教育基本法に基づき、幼稚園教育要領が昨年四月から施行され、学校教育では学習指導要領の本格実施を目前に控えて、大きな転換期を迎えている。ただ、教育の変革は、十年先、二十年先、さらにその先の日本や世界の在り方の礎を築くものであることを、心しておきたい。

岡崎の子供たちが、これから先、何を求め、どのように創り上げていくのか。何を考え、どのように自己を高めていくのか。それは、私たち岡崎の教師の姿勢によるところが大きい。子供たちに、「未来を見据えた豊かな学び」を構築し、生きる力の育成という理念のもと、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、授業時数の確保、学習意欲の向上や学習習慣の確立、豊かな心や健やかな体を育む指導の確立を図りたい。

そして、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることを使命とし、教育の創造に努めなければならない。

次に、指導の重点について述べる。

一　学ぶ楽しさを実感し、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進

子供自身が学ぶ楽しさを実感し、自らの力で社会を生き抜く確かな学力を身につけさせなければならない。

そのためには、まず、基礎的・基本的な内容の定着を図ることである。次に、周囲を取り巻く社会事象に目を向け、自分なりに気づき、課題意識をもって追究できる力を伸ばすことである。

このようにして、学習指導全般で、子供一人一人の学びの確かさを確認し、学ぶ楽しさや学びの満足感・達成感を大切にしていきたい。

一　命の大切さを自覚し、他を思いやる「やさしい心」を育む教育の推進

命はかけがえのないものである。何があっても命を大切にし、命を守る心を定着させなければならない。

子供たちが自身の問題として、命の大切さを実感し、人間として心豊かに生きるための「やさしい心」を育まなければならない。教師の人間性は、子供たちの人格形成に大きな影響を与える。教師自身が正義と倫理を持ち、子供たちの模範になる豊かな心と美しい人格を磨き上げたい。

そうしたうえで、子供たちが人・もの・ことなど他とかかわり合い、命の大切さを悟り、他を思いやる心を感じ取るようにさせたい。

▲ 健やかな体ー岩津中ー

▲ やさしい心ー矢作南小ー

学校教育に求められているものは、幼児児童生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。

各園・学校においては、基礎的・基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、公共の精神を尊び、幼児・児童・生徒の個性を伸ばす教育を展開することが大切である。

そのために園・学校や地域の実態に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる、安全で魅力ある園・学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全園・全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を築き、家庭と地域と園・学校とが協働して信頼される教育の創造に努める。

指導の重点

一　学ぶ楽しさを実感し、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進

一　命の大切さを自覚し、他を思いやる「やさしい心」を育む教育の推進

一　自らを律し、たくましく生きる「健やかな体」を育む教育の推進

一　自らを律し、たくましく生きる「健やかな体」を育む教育の推進

「健やかな体」とは、単に体力の向上と身体の健康をいうのではない。自らの人生をたくましく生きる強い精神力が備わっていなければならない。規範意識を高揚し、目標達成に向けて努力するなかで、自信と存在感を抱かせることも必要である。

日常生活におけるスポーツに親しむ習慣や、朝食を摂るなど家庭の基本的な生活習慣を身につけさせる。

家庭と地域と学校とが共通理解のもと、協働し、教育活動全般において計画的に推進していきたい。

＊　＊　＊

岡崎の教育は、前述のような不易の部分を大切にしながらも、新たな三つの柱を掲げて動き始めている。

第一は、**「英語教育の充実」**である。子供たちが義務教育を修了した後、国際社会で幅広く活躍できることを目指して、「英語が話せるおかざきっ子」を実現する。聞く力を備え、コミュニケーションを図り、英語を意欲的に学び続けようとする児童・生徒を育てたい。

本年二月、本市は文部科学省より「教育課程特例校」の指定を受け、今年度、小学校の教育課程の中に「英語活動」を新しく位置づけることにした。小学校第一学年から中学校第三学年までの九年間で、小中一貫した「岡崎市英語カリキュラム」に基づいて英会話能力の基礎を培い、世界に通用する人間を育成する。

第二は、**「環境教育の推進」**である。子供たちが、地球規模の環境問題の解決に向けて高い見識を持ち、主体的に実践できるようにし、持続可能な共生社会に生きることを目指す。

具体的には、義務教育九か年を通して本市独自で系統的に作成した「岡崎市環境学習プログラム」を、全小中学校で運用していき、未来を自分の手でつかむ人間を育成する。

第三は、**「岡崎の心の醸成」**である。これからの社会をリードするのに相応(ふさわ)しい心を、郷土の偉人の姿から学び、醸成することである。

本市には、徳川家康公をはじめ、遺伝学者の木村資生博士、地理学者の志賀重昂氏など、偉業を成した人を輩出している。こうした偉人の姿から岡崎人らしい心の在り方・生き方を学ぶ。それこそが、これからの社会に必要な人材の心の在り方である。教科や領域に位置づけて授業を展開し、心身ともにたくましい人間を育成する。

三つの柱に共通するのは、岡崎の未来・日本の未来を担う子供たちを育てることである。自信と誇りをもち、輝く未来社会に挑戦する教師でありたい。

まさに、「教育は人なり」である。

お知らせ

● 教育最新情報

○岡崎教師塾「允文館」

将来、岡崎市立小中学校の教師をめざす者〈大学三・四年生及び大学院生〉を対象に、教師になるための講座が開講される。主催するのは、本市教育の推進役として活躍されたOBの先生方で、直接指導にも当たる。

五月から二月までの期間、月一回程度、土曜日の午前中に開講し、全十回が計画されている。教師という仕事がどのような仕事であるのか、心構えから具体的な指導技術までを内容とし、実際に小中学校で実習をすることになっている。

本塾で学び、熱意に満ちた若い先生が、岡崎の教壇にたくさん立ってくれることを期待したい。

○岡崎市「いのちの教育」アクションプラン

平成十九年度から三年間の計画で進めてきた「岡崎市『いのちの教育』アクションプラン」推進事業は、三月十七日の推進協議会をもって完了した。

この三年間、「家庭」「地域」「園・学校」「行政」「子供」の五つの部会が連携し、大きな成果をあげてきた。各部会からの提言、生徒市議会と連携した中学生フォーラムの開催、「行動目標」や「いのちの誓い」の採択、PTA連絡協議会によるフォトコンテストなど、様々な取組がなされた。また、矢作北小学校、矢作北中学校による研究的な取組をはじめ、各学校の工夫を凝らした集会活動や行事、「いのちの教育学習指導案事例集」の編集発刊、各学級での道徳授業など、学校現場での充実した実践も行われるようになった。

そして、三年間の市内のいじめ認知件数は大きく減少した。これは、それぞれの取組の成果が現れていると考えられる。

いのちの教育は学校教育の根幹であり、いのちの教育に終わりはない。推進協議会では、今後も実践や取組の継続を願い、平成二十二年度のカレンダーを作成した。このカレンダーには「岡崎の子ども『いのちの誓い』」を掲載している。学校や家庭で「いのち」について考えるきっかけになることを願っている。

● 教育関係機関だより

○教育研究所

☎二三―〇四一六

教育研究所は、中核市岡崎への研修権の委譲以来、教育関係の「研修」「研究」「相談」の拠点となっている。

昨年度は、竜美丘に教育相談センターが開所され、「相談」機能が移転。今年度からは「研修」「研究」に特化し、初任者研修から管理職研修、さらには各教科の研究活動も強化していく。また、文部科学省の認可を受けた教員免許状更新講習も実施予定である。

「学校教育の視点」（本紙参照）に掲げた教育の実現を目指し、効果的・効率的な研修、研究を推進していく。

○ハートピア岡崎

☎二一―三二〇七

ハートピアは、今年の一月に開所した「岡崎市教育相談センター」内へ移転した。市の中心部になったということもあり、開所以来多くの相談を受け、新たに七名の子供たちが通所を始めた。

ハートピアの主な役割は、不登校で悩む子供や保護者に対して、教育相談や学校訪問、家庭訪問等を通して学校生活への適応（能）力を高め、学校復帰できるように支援することである。

不登校を増やさないためにも、学校と連携を取りながら早期の対応をしていきたい。

○少年自然の家

☎二三―〇四一六

少年自然の家は、自然に親しむ機会の少なくなった子供たちに豊かな自然の中で野外・宿泊活動、自然探究等の体験活動を通じて、心身の健全育成を図る教育施設である。昭和五十二年に開所され、今年度で三十三周年を迎える。

昨年度の利用者数は市内小中学校の児童生徒を中心に、主催行事、市内外の諸団体の利用を含め、延べ数は二万三千人であった。

昨年度末には、宿泊棟の外壁を塗り替えた。遊歩道や標示板を整備し、子供たちが充実した野外活動ができるように準備している。

●表　彰

◆全日本学校関係緑化コンクール　学校環境緑化の部
特選（文部科学大臣賞・日本放送協会会長賞）　常磐東小学校

◆全国学校ビオトープコンクール二〇〇九
環境大臣賞　秦梨小学校

◆平成二十一年度こどもホタレンジャー　小学校の部
特別賞　鳥川小学校

◆全国少年少女消防クラブフレンドシップ二〇一〇
特に優良な少年消防クラブ表彰　本宿小学校

◆天皇杯第十五回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会（愛知県チーム第六区）
区間二位　葵中二年　西山　令

◆第五十五回青少年読書感想文全国コンクール
入選賞　葵中二年　木村圭佑

◆キッド・ウィットネス・ニュース
最優秀作品賞・撮影賞　井田小五年四組（秋山・粟生・金子・亀井・松原）

◆「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文」コンクール　作文の部
国土交通事務次官賞　矢作中三年　鈴木絵梨奈

◆アートクラブグランプリinSAKAI
入選　矢作中三年　古田　凪

◆第六十九回全国教育美術展
特選　美合小六年　戸松　静
特選　美合小三年　安藤誠笙
佳作　美合小三年　森　愛捺

◆NHK全国短歌大会
ジュニアの部　入選　河合中二年　齋藤野花

◆第三十六回東海アンサンブルコンテスト
木管三重奏　金賞・朝日新聞社賞　新香山中学校
打楽器五重奏　金賞　美川中学校
※以上二校は全国大会出場

◆第三十三回全国アンサンブルコンテスト
木管三重奏　金賞　新香山中学校
打楽器五重奏　金賞　美川中学校

◆読書ゆうびんコンテスト
県知事賞　連尺小三年　藤梨歩夏
県知事賞　美合小二年　藤原琴音
県教育委員会賞　梅園小一年　依田桜子

◆第三十七回人権を理解する作品コンクール　標語の部
佳作　夏山小六年　近藤仁樹

●期待の新規採用教職員

小学校（五十名）
梅園小　中根　良輔
根石小　小原みなみ
男川小　金子恵里奈
美合小　長田　貴子
緑丘小　梅本亜沙美
羽根小　岡本　奈美
岡崎小　日下部教子
六名小　金田　一良
三島小　鈴木　陽香
竜美丘小　日数谷友佳
連尺小　平野　友美
広幡小　田村　千恵
井田小　明石満百実
愛宕小　内田　彩奈
山中小　原田　紗代
常磐東小　勝治　貴志
常磐小　中根　千佳
細川小　田中　正俊
岩津小　海藤　陽子
大樹寺小　柴田　将貴
大門小　本間佐知子
矢作東小　鈴木　里佳
矢作北小　米坂　達也
矢作西小　平岩美智子
矢作南小　藤本多真季
六ツ美中部小　小久保真実
細川小　鈴木　美沙
六ツ美北部小　市川　久乃
六ツ美南部小　林　ひとみ
城南小　大川内香織
上地小　酒井　孝康
小豆坂小　兼子しずか
北野小　倉地　李奈
豊富小　長谷志津香
夏山小　鈴木　智記
形埜小　井上　義丸
海藤　陽子　蓑宮真梨恵
柴田　将貴　成瀬　正実
本間佐知子　権田　康成
鈴木　里佳　辻村　堅吾
米坂　達也　鷹巣ゆき奈
平岩美智子　小木曾正章
藤本多真季　杉浦矢江己
小久保真実　三井　靖子
鈴木　美沙　高橋　早貴
市川　久乃　山本　貴之
林　ひとみ　田中　瑞花
中根　聡
深見奈々子
広瀬　悠

中学校（十七名）
甲山中　鵜納麻衣子
美川中　安藤　翔太
南　中　太田　雅也
竜海中　栗田　一歩
今井　尋貴
山崎　留美
森　正吉
葵　中　青木　純子
城北中　本多　敦子
福岡中　加藤亜有未
東海中　岩津中　岩井　恵
矢作中　鬼頭　佑樹
矢作北中　藤澤　美穂
若林　祥子
北　中　柴田久寿子
青木　万結
六ツ美北中　近藤　京子

養護教諭（一名）
額田中　川端　匡子

栄養教諭（一名）
福岡小　鈴木亜由美

事務職員（二名）
甲山中　西俣友紀子
竜海中　酒井　敏行

●平成二十二年度岡教組執行委員

執行委員長　荒河　昌吾
執行副委員長　稲垣　祐嗣
書記長　神谷　明良
書記次長　清水　孝治
組織部長　寺澤　益実
情宣部長　吉川久美子
教文部長　安部　朋彦
福対部長　岡村　直美
調査部長　神谷　敦仁
青年部長　石黒　智康
女性部長　都築眞美子
会計委員　河合　泰宏
◆愛教組執行委員・常任
執行委員　山元　嘉与
女性部常任　小川　有理

フォトヒストリー 岡崎の教育

環境緑化

（昭和53年）

写真提供：三島小学校

写真は、校地北東にある『美ど里が池遊園』の整備を職員作業で進めている風景である。その一画には「より自然に親しんでもらおう」とミニ湿原も造り、この年（一九七八年）、県環境緑化コンクール特選に輝いた。

一九七〇年代後半、ドイツから始まったビオトープの試みは、日本では一九九〇年代から本格的に始動することとなった。しかし、岡崎市の小中学校では、環境緑化の名の下に、ドイツと時を同じくして同様の活動を進めていたともいえる。

今、まさに環境緑化の重要性が叫ばれるとき、先達の意志と努力を受け継ぎ、再整備に着手しているところである。

・タイトルバック　矢作東小　赤崎類子
・カット　美川中　長坂有里乃

オアシス

「大人だって夢を追っていいはずです。」

日本のドーバー泳女王は、どんな困難にもプラス思考で挑戦を続けている。私たちも、夢をもって日々の仕事をしたい。目の前の子供に、こうなってほしいという熱い願いを持ち続けていたい。苦しいときも、教師という仕事が好きという思いを根底に、乗り越えたい。

春日遅々。つるべ落としのころはいつのことであったか。時の速さよ。

悠然とした印象もある春であるが、やはり何かを期待する季節だ。今年はどんな一年になるか、どんな出会いがあるか、よい一年でありますように。一月一日ではなく、我々にとっては確かに今日が元旦である。心躍る一年にしたい。

新しい制服に身を包み、中学校へ。

校門では、大人びた顔の上級生が受付に案内する。六年前は母親と手をつないでいたが、今日は一人で歩いている。今から三年間、たくさんの初めてと出会い、たくましく成長していくことだろう。今は大きめの制服が、ぴったりと似合う日が楽しみである。

ストレス社会といわれる現代。変化の激しいこの困難な社会を生き抜く子供たちがしなやかに育っていくには、体力の向上だけでなく、精神力の向上が不可欠だ。

混沌（こんとん）とした二十一世紀に育つ彼らに、我々教師が、地道に努力する姿勢とストレスに負けない心の強さを改めて教えていきたい。

この本を

＊日本語が亡びるとき　水村　美苗
筑摩書房　¥1,890

＊単純な脳，複雑な「私」　池谷　裕二
朝日出版社　¥1,785

＊出星前夜　飯嶋　和一
小学館　¥2,100

＊千年，働いてきました　野村　進
角川書店　¥705

＊教師花伝書　佐藤　学
小学館　¥1,200

「花を知らんと思はば，先ず種を知るべし」世阿弥の「風姿花伝」の精神に沿って，教師の学びの構えと作法を厳しく問う。専門家の学びの基礎は，教室のこまやかな事実を「発見」し，「驚き」を感じる能力にある。ベテランも若手も，共に謙虚に学び合う職場の「同僚性」が，教師の成長を促す。学びとは何かという，この難解な探求を同僚と愉（たの）しむ，そんな学び上手な教師集団でありたい。

六ツ美中部小　高比良　泰太